

地域子育てネットワークだより

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県県民生活部男女青少年課

E-MAIL : daniioseishounen@pref.hyogo.lg.jp 電話 : (078) 341-7711 (内線 2753)

令和5年2月号



<http://web.pref.hyogo.lg.jp/Akt17/network>

子育て支援メッセ in 淡路島

2023年2月26日(日) 11:00~15:00

会場：アル・クリオ (イオン淡路店隣接)

子育て支援団体や企業、行政などが集まって、子育て中のパパママ、支援者がつながるイベントを開催します！

ステージでは、かば☆うまさんによる遊び歌ライブや保育園児による和太鼓の演奏、こどもミュージカルや学生とパパママによる子育てホンネ座談会を行います。

他にも楽しいコーナーが満載ですので、ぜひご来場ください！

まあるく会場

小児科の先生や助産師さん
保育士さん栄養士さんによる～よろず相談～

体験コーナー

小児はり：刺さない「はり」で、
お子様にも安心です
子どもの遊びと防災

ワークショップ

プラ板・革細工キーホルダー・バルーンアート・吹き戻し製作

『まあるく会場』では授乳室やオムツ交換にもご利用いただけるので、お気軽にお声かけください！

絵本・図書コーナー
むかしあそび
絵本読み聞かせ
木のおもちゃで遊ぶ木育



一部、予約優先プログラムがあります。
予約フォームはこちら

主催：子育て支援メッセ in 淡路島実行委員会

ひょうご子育てコミュニティ・兵庫県

後援：淡路市 淡路市社会福祉協議会

☎子育て支援メッセ実行委員会事務局

(NPO法人淡路島ファミリーサポートセンターまあるく)

TEL : 0799-70-1472 ☒ maaruku-awaji@gaia.eonet.ne.jp

新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して開催いたします。
ご来場時には対策の実施にご協力をお願い致します。
発熱や風邪の症状がある場合はご来場をお控えください。
今後の県内の感染状況を考慮しプログラムの変更または中止となる場合がございます。

課題を抱える妊産婦

支援プロジェクト

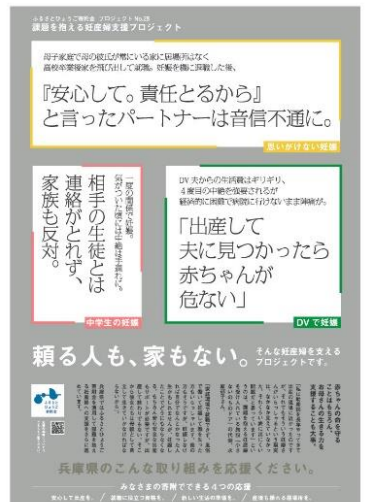
ふるさと寄附

ご協力をお願い

心中以外の子どもの虐待死のうち、半数以上が0歳で亡くなっています。これらの事案の多くは、妊婦健診を受診していないなど妊娠中に適切な支援に繋がっていませんでした。

予期せぬ妊娠をしたことで誰にも頼れず悩んでいる方は少なくありません。県では、そ

うした妊産婦を支援する「課題を抱える妊産婦支援プロジェクト」を展開しています。お母さんが安心して出産し、子育てできるよう、ふるさと寄附による応援・当プロジェクトのご案内のご協力をお願いします。



詳細は「課題を抱える妊産婦支援プロジェクト」(県ホームページ)をご覧ください。

問い合わせ先／兵庫県福祉部児童課 児童福祉班 TEL078-362-4224 Eメール jidouka@pref.hyogo.lg.jp

詳しくはこちら



子育て応援ネットの活動紹介

声かけ・見守り活動などで子育て家庭を応援する「子育て応援ネット」の各地の取り組みを紹介します



丹波市では地域子育てネットワーク事業を推進するため、**子育て支援連絡会**を組織しています。構成団体は丹波市内の**様々な分野で活動している13団体**で、年間2回の役員会を実施し、どのような事業や支援を行うか協議しております。令和4年度もコロナ禍ではありますが、感染症対策をしながら12月に防災をテーマに子どもと備える基礎知識として「**子育て応援研修会**」を開催しました。また、2月には**親子の絆を深める**ことを目的にした「**大型紙芝居&音楽あそび**」のイベントの開催を予定しています。

子育て世代、子育てを支援する世代に向けての呼びかけや講演会などの活動を通じ、子育てについて親が一人で悩まないように、**地域とともに子どもを育む環境づくり**を行っています。



丹波市子育て支援連絡会

まちの子育てひろばの活動紹介



明石市 鳥羽子育て学習室とばたん



明石市鳥羽校区で「鳥羽子育て学習室とばたん」は**未就園児を中心に活動している子育てサークル**です。明石市から補助金が出る中で**活動内容はママ達で相談**し年間行事・予算管理も全て行います。今年度はコロナ禍で5組の少人数となり**アットホームな雰囲気**となりました。

今までに**季節の行事に合わせた工作**や芋掘り・プラネタリウムへ行くなど野外活動も**活発に行いました**。12月には**ひろばアドバイザー派遣**でパネルシアター・紙芝居・人形劇などを行う講師を紹介していただきました。沢山の声を演じるので、まさかお一人とは思えない引き出しに**親子共々引き込まれ楽しいひと時**となりました。これからも、**子どもが色々な事を感じ・学べる大切な時期**を守れるようコロナ禍でも感染対策や人数制限など注意し、子育て学習室の活動が続いていければ良いと思います。



鳥羽子育て学習室とばたん 代表 北風文字子



連載
第161回



七草粥の由来と春の七草

県立こども病院名誉院長 中村 肇



1月7日の朝、七草粥を食べられましたか。そもそも、**なぜ七草粥を食べるのでしょうか**？
唐の時代、毎年この日に、**7種類の若菜を入れた汁物**を食べて、**無病息災を願う**ようになったのが始まりです。

この風習は、**奈良時代に日本へ伝わり**、年のはじめに若菜を摘んで食べ、生命力をいただく「**若草摘み**」の風習が、7種類の穀物でお粥を作る「**七種粥**」の風習などと結びつき、「**七草粥**」に**変化**していきました。

江戸時代には、1月7日は五節句のひとつ、「**人日(じんじつ)の節句**」として定着したそうです。

春の七草、「**せり・なずな/ごぎょう・はこべら/ほとけのざ/すずな・すずしろ/春の七草**」は、**五七五七七のリズム**に合わせて口ずさむと、覚えやすいはずですが、私はどうしても覚えることができず、メモ書きを持って母のお使いに行ったのを思い出します。

今では、パック詰めした七草がスーパーの店頭で並び、随分と楽な時代になったものです。